

新大臣の椅子一つ

外相と新設の拓殖相
其一つへ後藤新平子

▼ 日 本 近 信

田中首相は九月二日午後某所で秘密裏に後藤新平子と會見したが政界兩巨頭のこの會見は必ず重要な内容をもつてゐるものと見られてゐるといふのは田中内閣は早晚二人の新聞僚を迎へなければならぬ即ちその一は外務大臣で田中首相が目下外相を兼攝し當人は非常に乘氣になつてやつてゐるが周囲のものはこのまゝ議會にのぞむことを非常に危ながつて議會までにはどうしても首相の外相兼攝をやめさせ専任外相を置かねばならないと、首相も今のところでは大體その腹らしいから外相の椅子があくことは先づ間違ひはない次ぎは新設の拓殖大臣である、拓殖省の設置は目下行政制度審議會の議に附されるが首相をはじめ現内閣の閣僚は拓殖問題をすこぶる重要視してをり、黨内の意向も拓殖省の創設を要望してゐるから拓殖も田中首相としては最も重要性を認めてゐることで、ある、一面には高橋是清氏が去つたりして内閣の重みをひつ張り込み内閣の重みを加へようとの考へもある、既報の通り外相説のときもこの事の新任を機として政界の重要な物をひつ張り込み内閣の重みを相はさら後に後藤新平子に日星をつけ二日會見の席上で首相から子の入閣をすこめたといはれてある、また田中首相は後藤子とはかねてから懸念の間柄で、山本地震の際はともに閣僚として

二、
拓殖省設置に關する件
左のとく拓殖省設置要項を決定して午後零時廿分散會した後各自意見を交換し審議の結果

行政制度審議會委員會總會は九月七日午前十時半首相官邸で開會側の立案した設置に關する要項を参考案として報告說明した

三、
拓殖省設置に關する件
左のとく拓殖省設置要項を決定して午後零時廿分散會した後各自意見を交換し審議の結果

拓殖省設置

要項

さまる

田中首相は拓殖大臣を希望するに對し後藤子は外相をはしがつてゐるから契約の出来上るのに

は少し手間ぞれよう

眼を刺され乍ら

怯まず賊を捕心

三共商會

市

ストン

サ

四四街ナータスベルエデンラ

八二三...函郵

四二九一...話電

◆ソロカバナ線の土地
ウエンセラウ町の發展振り
に好適地帶

地券

カフェー及米豆等の栽培

確實

なるべく此處一两年にはシダーデコマルカとなる。

日本本人入植者既に多數あり何れも満足し

居る。

ある。

プリンシベーサ・マファルダ號 一万一千噸の伊國優秀大客船

航海中突如爆發沈没す

去る十二日伊太利ジエネグアを發し、昨二十六日リオ港に入埠の豫定で、無事大西洋の波浪を乗り切り、バイア近海を航走中であつたプリンシベーサ・マファルダ號は、バイア海岸から百浬に差し掛つた際突然機関が爆発して一千六百名の乗客と共に沈没したとの報は傳はつたのである。乗客は勿論の事、全プロジルに甚大な衝動を與えた。遭難の原因に就ては未だ詳報を得難いから、現地は常に風浪高く暗礁が多い爲め、ラジル近海では難船路の一つに算へられ、航海者は細心の注意を拂ふのが常である。遭難の第一報を得て船底が暗礁に觸れ浸水して沈没に至つたのだといひ、或は航走を急いで規定以上の速度を出した爲め機関が爆發したのだと傳え諸説紛々だが最後の情報では、乗客の大部分が救助されたといふから、之はせめても不幸中の幸と言はねばならない。

同船はナヴエガソン・ゼラル・イタリアーナ會社に所屬し、一萬二千噸、十八節の優秀速力を有し約十八年前の建造であるが、船内の裝飾には善美を嘆し、貴重の工芸品をもつらへ船室の構造も特に技巧を加へて氣持よく、南米航路に服務する各國船の中では傑出した優秀同船の航路はゼンガアを起點とするが、船長モントヴィデオを経てブエノスアリーフは巧に船を操縦して危害を免れたと云ふので斯界に令加した。

歐洲戰争當時は屢々潛艇の襲撃を蒙つたが現在の船長グリーフは巧に船を操縦して危害を免れたと云ふので斯界に令加した。

（リオ廿六日）海軍大臣は巡洋艦リオグランデドスル號を遣難者救助の爲め急行せしめた。

（リオ廿六日）マファルダ號搭乗船客は千二百五十六名で、内一等五十二名、二等八十一名、三等八百二十七名及び船員二百八十八名である。

（アマラリーナ廿六日）遭難位

地は南緯十六度四十八分、西經三十七度四十一分でリオから五百里ボルト・セグロから七十浬を距てゝある。

（サン・カルバドール廿八日）遭難の原因は未だ明瞭せざるも航路時は操縦の誤由を有しないが、此の地點は常に風浪高く暗礁が多い爲め、ラジル近海では難船路の一つに算へられ、航海者は細心の注意を拂ふのが常である。遭難の第一報を得て船底が暗礁に觸れ浸水して沈没に至つたのだといひ、或は航走を急いで規定以上の速度を出した爲め機関が爆發したのだと傳え諸説紛々だが最後の情報では、乗客の大部分が救助されたといふから、之はせめても不幸中の幸と言はねばならない。

（リオ廿六日）今日當港着の豫定であつたプリンシベーサ・マファルダ號は昨日十五時十五分船内教授が便乗してゐる、チニー教授はイタロ・ブラジレイロ教授はイタロ・ブラジレイロにて講演をする爲めに

（ローマ廿六日）マファルダ號は五百名の遭難者を收容し直ちにリオ港に頻しお電を發して救助を始めたが、船首は長く水上に沈没したが、船首は長く水上に沈没したが、船首は長く水上に

（ローマ廿六日）マファルダ號は五百名の遭難者を收容し直ちにリオ港に頻しお電を發して救助を始めたが、船首は長く水上に

